

奈文研

ニュース

No.30

sep.2008

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
<http://www.nabunken.jp/>

古文書の調査

奈良の古寺社には、膨大な量の文化財が伝存しています。人間の手によって伝世されてきた文化財としては、質・量ともに世界的にも誇るべきものです。ですから、それら文化財の調査・研究は、当研究所発足以来の中心的なテーマの一つと位置づけられています。ただし、比較的地味な調査が多いので、注目される機会は少ないかもしれません。そこで今回は古寺社所蔵の古文書の調査についてご紹介します。

古文書でも、有名なものは管理も行き届き、内容もよく知られ、研究者が利用したり展覧会に出品されたりします。しかしそのような古文書は、全体の中のほんの一部にすぎません。古文書の大部分は、かつては寺社の中で使われていた書類が用済みになって箱詰めされ、蔵の奥にしまい込まれたものです。そして今もなお、しまい込まれたまま何が入っているかもよく分からない箱が、古寺社にはたくさん存在しています。当研究所の古文書調査は、そのような未整理の古文書を主な対象にしています。文化遺産部の歴史研究室では、それらを調査して目録を作成する、という最も基礎的な作業を長年実施してきました。当研究所の発足以来、半世紀以上継続していながら、まだまだ対象となる古文書が多くあるの

ですから、その膨大さが分かるでしょう。

調査は、単純といえば単純な作業です。箱のなかに入っている古文書を読んで内容を確認し、分類して番号を付けてラベルを貼り、調書を取り、写真撮影をしていくのです。もちろん、内容は千差万別・玉石混淆^{ぎよくせきこんこう}で、虫に喰われたり埃にまみれたりしていることも多いのです。

しかし、まだ誰も触っていない箱を開けて、その中身を確認するその楽しさは、ちょっと体験した人でないと分からないかもしれません。このように、文化財を一点ずつ把握して初めて、それが歴史を語る史料になっていくのです。未知の史料と向き合い、その内容を理解すれば理解するだけ、歴史に対する理解が深まるのですから、調査にも力が入ります。

寺社の文化財は、先人たちが何百年もの間、大切に保管してきた結果、現在にまで残ったものです。それらの文化財は、寺社がはるか昔に創建されて以来、幾多の盛衰を経つつも、今日に至るまで途切れることなく存続してきた、その証しです。文化財調査の基本とは、まずは文化財をより良い形で後世に残すこと、そしてその上で、それらを歴史の史料として把握し、歴史を豊かにすることだと思って、日々、各寺社に出向いて調査に精を出しています。

(文化遺産部 吉川 聡)



古文書の調書とり(薬師寺にて)



未整理の古文書が詰まった箱(東大寺にて)